

宮崎市立大淀中学校の学力向上への取組

1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

- ① 国語・数学・英語に比べて、社会・理科の落ち込みが若干見られる。
- ② 国語では「話す力・聞く力」が、社会では「社会的事象についての知識・理解」が、数学では「数量、図形などについての知識・理解」が、理科では「自然事象についての知識・理解」が、英語では「理解」が、それぞれ他の領域に比べると落ち込んでいる。

(2) 意識調査結果からの課題

- ① 「学びの基礎力」「生きる力」がともに、宮崎県の平均を下回っている。
- ② 「学びの基礎力」では、「学びを律する力」が落ち込んでいる。特に、「学習環境の整備」が悪く、正しい姿勢で学習ができていない点も課題となっている。
- ③ 「生きる力」では、「心の豊かさ」が落ち込んでいる。特に、「責任をもってやり抜くことができる」ことができていない。
- ④ ゲームをする時間が県平均に比べて、著しく長い。

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上に向けた経営方針

- ① 「確かな学力」「強い心」「健康な体」を本校の教育目標としている。この中で、「確かな学力」を具現化するための方策として、「基礎的・基本的な学力の定着」を学習指導上の重点事項とする。
- ② また、すべての教科等の学習を進める上で必要な「読み・書き・計算・コミュニケーション能力」等の基礎学力の育成については、拠点推進校としての主題研究における取組を通して、学習指導法の工夫改善を進める。

(2) 教育課程内の取組

① 国語科における実践

- ア 9年間を県の指導方針を参考にいくつかのまとまりに分け、指導事項の重複を減らし重点化するなどして再編成し、発達段階を踏まえて、情緒力から論理的思考の育成へと指導の系統化を図った。
- イ 思考力を高め、論理的言語技術を身に付け、相手や目的に応じた表現力を育成するために、論理的な文章を読むことや書くことの指導、相手を説得する討論の指導を重視した。

② 社会科における実践

- ア 各学年の生徒の実態を分析し、最も克服すべき課題として挙げられた基礎的知識の定着を図る場を、授業ごとの指導過程の中で設定した。
- イ 知識注入型の授業に偏ることがないように、生徒の思考を意識した授業設計を行い、現実の社会と関連付けた学習の場を設定した。

③ 数学科における実践

- ア 基礎・基本については、知識・技能を中心に生徒の学習の定着を図った。そのために、身近な生活場面を取り入れた文章問題を用いるなど、指導の工夫改善に力を入れた。
- イ 数領域における計算能力を高めるため、ドリル学習を繰り返し行った。教師が何度も丁寧に説明をしたり指導内容を拡充したりしながら、練習問題の量を増やした。

④ 理科における実践

- ア 自然の事物・現象を適切にとらえ、課題を明確にした観察・実験を重視した授業を展開し、学んだことを生活に活かしていけるよう、理科の学習と日常生活との関連を図った。
- イ 基礎的な内容の理解を深め、定着を図れるような授業の展開を工夫した。

⑤ 英語科における実践

ア 基礎的・基本的な事項の定着を図るため、個々の力に応じた課題を工夫し、学習成果を発揮できる場を授業の中で多く設定した。

イ 実践的コミュニケーションがとれる場として、ALT 訪問などの活用や通常の授業での表現力を培う活動に力を入れた。また、聞くことや話すことに関して、リスニングテストやスピーキングテストなどを多く設定した。

(3) 教育課程外の取組

① 週末課題の実施

国語・社会・数学・理科・英語の各教科では、週末課題としてやや問題量が多い教材プリントを作成し、生徒に配布している。ただし、超過負担を避けるために教科間で話し合い、出題量を検討しながら実施している。また、解答後はすぐに自己評価を行うことが大切であると考え、課題プリントと同時に解説解答プリントも配ることを通例としている。学習部の係りの生徒と担当教師とで連携し、週明けの提出を徹底させたり、未提出者には昼休みや放課後における支援も行ったりすることで、真面目に取り組むことの大切さを強調している。

② 各種検定の実施

漢字検定、硬筆検定、英語検定、数学検定の4つの検定を、各教科の担当教諭が計画・準備し、年間それぞれ2回程度ずつ実施している。実施については、生徒・職員ともに通常教育課程に対する負担が少ない時間帯であることを考慮して、金曜日の放課後や土曜日の午前中を利用している。回を重ねるごとに関心が高まり、参加者が増えている中で、多くの生徒が受検級の合格を果たし、次の検定での昇級を目指すとする意欲的な態度を見せている。

(4) 保護者・家庭、地域との連携

① 参観日アンケートの実施

外部評価・学校評価の一環として、参観日ごとにアンケートを実施し、生徒の様子や授業・懇談に対して寄せられた保護者の評価を分析した。当初は厳しい数字が示された項目もあったが、5段階評価の各項目に対し、4段階以上の評価を得られることを目標として取り組み、年間で4回実施したアンケートの評価平均値を3.9まで引き上げることができた。

② 大淀地区連携通信「ハーモニー」の発行

小・中連携の様子を大淀地区に発信する広報誌を発行し、大淀中学校・大淀小学校・古城小学校の全PTAに配布した。この中で、「知」・「徳」・「体」の調和のとれた児童・生徒の育成を目指して設定された到達目標について触れ、「どのようなことを目指しているのか」「その目標に到達するためにどうすればいいのか」について具体的に示した。

3 成果と課題

(1) 成果

- 県国語テスト・県数学テストなど県版の各教科テストでは、県平均との比較が向上している教科や学年が多く見られた。
- 各教科で基礎的・基本的な知識を身に付けさせるための教材の工夫改善に力を入れたことで、定期テストなどへの取組が大いに改善された。
- 参観日アンケートでは、設定した目標数値を平均値としてはほぼ達成することができた。

(2) 課題

- 各教科テストで、県平均との比較が向上している中で、学力が特に身に付いていない生徒に対する支援の在り方が今後の課題として挙げられる。
- さらに、発達段階や習熟の度合いに応じた指導の工夫を加えると同時に、評価の在り方についても研究を深める必要がある。
- 参観日アンケートで、ポイントが低い部分がある。重点課題として改善に取り組みたい。